

診療情報を集めて行う臨床研究に関するお知らせとお願い

熊本機能病院 整形外科では、「ビタミンD欠乏と大腿骨近位部骨折術後の歩行能力に関する調査」の研究に取り組んでいます。

研究の概要

2016年8月、血中25水酸化ビタミンD [以下、25(OH)D] 濃度の測定が、健康保険に収載され、日本でも世界標準のビタミンD、骨、ミネラル代謝異常の評価及び診療が可能となりました。血中25(OH)D値は体内のビタミンD充足状態を表します。ビタミンDの主な作用は骨、ミネラル代謝の維持です。ビタミンD不足は、骨に様々な影響をもたらすだけでなく、転倒の危険因子の一つであり、骨粗鬆症治療薬に対する効果が低下するといわれています。

大腿骨近位部骨折は、受傷後の死亡率が高いだけでなく、受傷前の生活レベルに戻れないことが少なくなく、要介護の重要な原因であることはよく知られています。また、歩行能力回復に影響を及ぼす因子として年齢、認知症、受傷前歩行能力等が報告されています。近年、海外の研究では術前ビタミンD不足は、歩行能力の低下に影響するとされ、術前ビタミンDの低値が歩行能力低下と関連したが術後ビタミンDの低値は関連しなかったと報告されました。しかし、わが国において、ビタミンDと骨粗鬆症、転倒、骨折など様々な研究が行われていますが、同様の研究は行われておらず、わが国においても同様のことがいえるのかは、現時点では不明です。

当院では大腿骨近位部骨折患者さんの術後2週時の25(OH)Dを測定していることから、術後2週時におけるビタミンDの充足状態と大腿骨近位部骨折後の歩行能力について、調査したいと考え本研究を企画しました。

本研究を行い大腿骨近位部骨折患者のビタミンDと歩行能力および日常生活動作(ADL)改善の関係を明らかにすることで、リハビリテーションをより充実させるための一助としたいと考えます。

対象となる方

2020年12月1日から2021年6月30日に入院し、大腿骨近位部骨折に対する手術を受けられ、術後2ヶ月時まで当院で入院加療を行い歩行能力の確認ができた方。

研究期間

2021年9月14日から2023年3月31日（研究終了日）

利用する診療情報

対象となる患者の年齢、性別、身長、体重、BMI^{※1}、入院日数、入院時の臨床検査結果（アルブミン、カルシウム、リン、eGFR^{※2}）、歩行能力（受傷前、術後1ヶ月、術後2か月時点での屋内外の歩行状態、人による介助の有無）、認知能力（MMSE^{※3}）、術後2週時の25（OH）D、骨折型・手術方法（頸部骨折骨接合、頸部骨折人工骨頭、転子部骨接合・転子下骨折骨接合）、骨密度（腰椎・大腿骨YAM値^{※4}）

※1 BMI：Body Mass Index；ヒトの肥満度を表す体格指数

※2 eGFR：推算糸球体濾過量

※3 MMSE：Mini-Mental State Examination；ミニメンタルステート検査

※4 YAM値：Young Adult Mean；若年成人平均値

研究機関の名称：熊本機能病院

研究責任者氏名：整形外科 高井 聖子

個人情報の取扱いについて

診療情報の利用に関しては、個人情報は全て匿名化されてから解析されますので個人情報が漏れることはありません。また研究結果は、学術雑誌や学会等での発表に使用させて頂くことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。

上記の研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施

しております。この研究にあなたの診療情報が利用されることに同意できない場合は対象と致しませんので、お手数ですが下記のお問い合わせ先にご連絡ください。また、ご不明な点があるとき、または研究計画等に関する資料をお知りになりたい場合は他の対象者の個人情報や研究全体に支障となる事以外はお知らせすることができますので、ご連絡ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用させていただくことに対して同意が得られたものとさせていただきます。また、研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を被ることはありません。

お問い合わせ先（電話交換の方が困らないよう記載してください）

熊本機能病院 整形外科 部長 高井 聖子

T E L : 096-345-8111(内線 3024)、 F A X : 096-345-8188